

## 『共に礼拝を捧げる教会』

ローマ人への手紙 12:1,2

あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。  
それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。(1節)

### 序]

久留米教会の今年の目標は「愛によって一致し、志を一つにする教会」を目指すこと。(ピリピ2:2) そのために三つのヴィジョンが示された。

- ①共に礼拝を捧げる礼拝 ②共に交わりを深める教会 ③共に伝道する教会  
\*今朝は、第一のヴィジョンについて学ぶ。

### 本]

#### I 礼拝とは何か

- ①何でないか。

日曜日に来て、讃美歌を歌い、祈りを捧げ、説教を聞いて帰るといふ、いわゆる礼拝プログラムのことではない。礼拝が、わずか日曜の1時間半のことだとしか考えられていないとしたら浅薄な話である。

- ②何であるか。

■礼拝とは、私たちの人生そのものである。1時間半という限られた人生の一部の話ではない。■礼拝とは、我らが神を喜ばせる行為すべてである。としたら、我らが食事をしたり、仕事や勉強をしたりすることも、それ自体が神への礼拝になり得る。神は、我らが集会に出たり、聖書を読んで祈るといふような、信仰的、霊的営みをしている時だけを喜ばれるのではない。神は我らのするすべてのことを喜ばれる。

\*我らの一挙手一投足が礼拝、我らの毎日が礼拝である。

#### II 礼拝の目的は何か

- ①神をお喜ばせるためであって、自分を喜ばせることではない。

「あなたがたのからだを、聖い、生きた供え物としてささげなさい。」(1)この場合の「からだ」は全存在を意味する。神に、我らの全存在を捧げること、それが礼拝である。

- ②神と交わるため。「交わり」とは相互のものである。

\*聖日礼拝を例にとると、一方的な賛美、祈りになっていないか。神は聖書朗読や説教を通して語りかけて下さっている。そのことに応答しているか。

#### III 共に礼拝を捧げるために

- ①この世と調子を合わせない。(2)

時代の流れに身をまかせず、キリストの福音にふさわしく生活する。まずは聖日を中心にして一週間の計画を組む。

- ②心の一新によって自分を変える。(2)

自分を捧げるためには、それまでの自分の考えや意識を一新して頂かないと出来ない。まずは日々の個人礼拝(ディボーション)を確立し、それを守ってきた者たちが聖日に結集して礼拝を共に捧げる。そこで、実は、今年の第二番目のヴィジョンである「共に交わりを深める」ことも実現している。

### 結]

今年掲げられた三つのヴィジョンは、互いにつながっている。共に礼拝を捧げるならば、共に交わりが深まり、その交わりが自ずと伝道へと発展していくはずである。まずはこの年、共に礼拝を捧げる教会を目指そう。